

# 北海道の印刷

PRINTING INDUSTRY IN HOKKAIDO

第 676 号

[Website] <http://www.print.or.jp>

[E-mail] [info@print.or.jp](mailto:info@print.or.jp)

9

2012

平成24年

9月10日発行

## INDEX

2012 全日本印刷文化典北海道大会	3・4
2012 北海道情報・印刷産業展	5
第18回北海道青年印刷人フォーラム	7
2012 北海道情報・印刷産業展公式セミナー	8
第6回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション	9

[表紙] 足早に道路を渡るキタキツネ（河東郡芽室町：9月）



北海道印刷工業組合

〒064-0808 札幌市中央区南8条西6丁目 TEL.011-562-6070/FAX.011-562-6072

## 「北海道での文化典」

北海道で15年振り5回目となる印刷文化典が、今月20日、21日、22日の3日間、「北の大地から始まる、ソリューション・プロバイダーへの道」をテーマに2012全日本印刷文化典北海道大会として札幌市を中心に開催されます。

北海道での印刷文化典は、これまで1956年（昭和31年）、1968年（昭和43年）、1979年（昭和54年）、1997年（平成9年）と4回開催されています。

1回目（昭和31年）の文化典は、高松宮殿下ご夫妻をお迎えし、「印刷あり文化あり」「優れた印刷輝く文化」のテーマのもと、「印刷文化の歌」を業界が初めて制定し、声高らかに合唱しました。

2回目（昭和43年）の文化典は、北海道開基100年の記念する年で、「風雪100年輝く未来の印刷業」のテーマのもと、オーストラリア印刷視察団一行の参加を得て国際色豊かな文化典となりました。

3回目（昭和54年）の文化典は、「創意と工夫で未来をひらく」のテーマのもと、一般市民に印刷を知ってもらおう印刷展を丸井今井デパートで開催するとともに道民の悲願である「北方領土返還キャンペーン」を行いました。

4回目（平成9年）の文化典は、「デジタル・ドリーム」のテーマのもと開催されました。指パッチンのポール牧さん（故人）を講師に迎えての記念講演、オンデマンド印刷の先駆けともいえる（？）前日の行事内容を翌朝配信した「ポテト速報」。まだ記憶に新しいのでは……。

皆さんはこれまで何度の文化典を体験しましたでしょうか。

都度、新しい出会いや発見があり、思い出が生まれ、明日への糧となったと思われま

今回の文化典は、全員が主役となって舞台に立ち、夢を見て、語り合い、ソリューション・プロバイダーへの契機としてはどうでしょうか。

北海道は多彩な個性が輝く、潜在力と可能性に満ちた大地です。

「印刷は文化」・・・何度か耳にしました。この言葉こそ印刷産業が社会に報いる原点のような気がしてなりません。

北海道印刷工業組合専務理事 伊藤 克義

# 2012全日本印刷文化典北海道大会 開幕目前!

9月20日(木)・21日(金)・22日(土・祝)

テーマ「北の大地から始まる、ソリューションプロバイダーへの道」

## 9月20日(木) 記念ゴルフ大会

会場/札幌カントリー倶楽部輪厚コース  
(北広島市輪厚77 電話011-376-2221)

- 7:00 受付
- 7:28 スタート
- 13:30 表彰式



札幌ゴルフ倶楽部 輪厚コース 1番ホール

## 9月21日(金)

- 13:00 受付
- 14:00 記念式典  
会場/札幌パークホテル 3F パークホール  
(札幌市中央区南10条西3丁目 電話011-511-3131)
- 15:10 全印工連メッセージ  
会場/札幌パークホテル 3F パークホール
- 16:30 記念講演  
会場/札幌パークホテル 3F エメラルド  
講師 夕張市長 鈴木直道 氏  
テーマ「やらなければゼロ!  
新たな可能性を創造するまちへ!」
- 18:30 記念パーティー  
会場/札幌パークホテル 3F パークホール



札幌パークホテル



鈴木直道 夕張市長

## 9月22日(土・祝)

- 8:00 全印工連理事長会 会場/札幌パークホテル 1F 光華
- 8:00 全国事務局研修会 会場/札幌パークホテル 3F エメラルド
- 9:30 全印工連フォーラム 会場/札幌パークホテル 3F パークホール
- 12:30 エキスカーション

# 2012北海道情報・印刷産業展が盛大に開催

55社147小間が出展、来場者6,100人

北海道印刷工業組合と関連の6団体で構成する北海道情報・印刷産業展実行委員会が主催する2012北海道情報・印刷産業展が8月30日、31日、9月1日の3日間、札幌市白石区のアクセスサッポロで55社147小間の出展で開催された。

設備導入、情報交換の場としてユーザーはじめ関係者から高い評価を得て、会期中6,100人の来場者で賑わった。

また、30日と31日に開催した4つの公式セミナーも盛況であった。

2012北海道情報・印刷産業展は、21世紀の情報化時代を見据えて、ICT時代に対応するために開催され、北海道の印刷関連業者に、的確な情報を提供するため、プリプレス、プレス、ポストプレスに加えて、各種ソリューションまでの全工程にわたる最新機材や、ソフトウェア、資材、情報機器等が展示された。

展示会初日の8月30日午前9時30分から、来賓・出展者などが出席して開会式が開催された。

最初に、岡部康彦実行委員長会会長（北海道印刷工業組合理事長）が、来賓に対して臨席のお礼、機器・資材メーカーならびに北海道印刷機材販売業者懇話会会員に対して、出展と協力のお礼を述べたあと、「印刷産業を取り巻く環境は、なかなか出口が見えないデフレ経済が続くなか、需要の減退、価格競争の激化による収益の低下、そのうえインターネット、電子書籍、スマートフォンなどの電子媒体が紙メディアを侵食し、これまでに経験したことのない大きな変革への対応が重要視されてきた。私ども業界も、業態変革から今年さらにはさらに一歩進んだソリューション・プロバイダーへ進化していかなければ、将来展望が描けなくなってきた。9月21日、22日と全日本印刷文化典が、15年ぶりに札幌で開催される。そのテーマも『北の大地から始まる、ソリューション・プロバイダーへの道』と決定させてもらった。この北海道情報・印刷産業展には、新たな事業の柱を構築するたくさんのヒントがあると多くの期待が寄せられている。全道各地より多数の印刷産業人が来場すると見込んでいる」と主催者を代表してあいさつを述べた。

次に、来賓紹介が行われたあと、4人の来賓から祝辞が述べられた。

増田壽一経済産業省北海道経済産業局長（田中利



穂地域経済部長代読）は、「昨今、ソーシャルメディアの発達や多様なデジタル機器の整備により、企業からの情報発信、消費者とのコミュニケーション方法も大きく変化している。印刷物の役割も、従来とは異なるものとなってきている。しかしながら、これらの通信やデジタル技術がいかに発達しようとも、印刷物でなければならないもの、同時に印刷物ならではの使い方があって考えている。今回の催しは、最新の印刷機械や周辺機器の展示のほかに、印刷業のあり方、成長方策のヒントを得るようなセミナーも予定されていると伺っている。業界を巡る変化に積極的に対応される皆様の熱意に、改めて敬意を表す。本年の出展については、印刷工程における省エネや、廃棄物の削減等を目指した機器が多く展示されているということである。エネルギー環境対策は、社会全体で取り組む喫緊の課題である。特に国内においては、この夏・冬の電力需給の見通しもかなり厳しいと想定をされている。経済産業省としては、自家発電設備の導入補助の公募受付を行っている。電力の供給力の強化について対策を進めている。印刷産業界においても、省

エネ、節電の取り組みに、引き続き協力・理解を賜りたい」と述べた。

高橋はるみ北海道知事（檜山明男産業振興局技術支援担当課長代読）は、「本道経済は、欧州の経済情勢、円高、この夏以降の電力の需給など非常に厳しい状況にあるが、日銀短観6月調査によると、道内の景況感は前回調査に比べ大幅に改善し、とりわけ食品、自動車部品といった製造業が堅調で、観光客の持ち直しで運輸、宿泊も大きく好転しており、持ち直しの動きがでていと発表されている。道としては、このような動きをより確かなものとし、北海道経済をしっかりとした成長軌道に乗せていくため、北海道に有する分野において、本道経済の成長力に結びつける取り組みを、産業界と一体となって展開していく。印刷業界を取り巻く環境は、受注競争の激化、労働者の高齢化、電子書籍の普及や多様化する情報発信への対応など、多くの課題が山積していると感じている。皆さんにおかれましては、日々課題解決に向けて努力されていると伺っている。このようななか、本印刷産業展は最新の機械や技術はもとより、新技術のノウハウ、実践事例に関する情報を収集、提供する貴重な機会であるので、今後の戦略の構築に役立つものではないかと考えている。さらには来月、2012全日本印刷文化典が、15年振りに本道で開催されることになっている。全国レベルでの経験や技術などの交流を深められることから、これらの機会を最大限活用していただき、本道印刷産業の成長産業として展開が進むよう期待申し上げます」と述べた。

上田文雄札幌市長（松川泰昭産業振興部ものづくり産業課長代読）は、「近年ではインターネットの普及や発展に伴い、紙媒体の印刷物が大幅に減少しているなど、皆さまを取り巻く環境は厳しいものと理解している。顧客ニーズに柔軟に対応したサービスの提

供や、環境に配慮した印刷手法により、他との差別化を図るなど、さまざまな工夫をされていることを伺っている。私ども市内の製造業を支援する立場としては、本当に心強いと感じている。札幌市内の製造業の中でも、印刷業は食料品製造業に次ぐ製品出荷額を誇っており、関連業種も多く、他産業への波及も高い主要な産業である。本市では、製造業を支援するアクションプランとして、札幌型ものづくり振興戦略を今年1月に策定した。印刷業を今後重点的に振興し、強化すべき主要6産業の1つと定めている。この戦略をもとに、札幌市では他業種との連携、新技術、新製品への取り組みの補助などさまざまな施策を行っていく。皆様におかれましては、今後も本市の経済を支える基幹産業の担い手として、引き続き尽力を賜りたい」と述べた。

島村博之全日本印刷工業組合連合会会長は、「本日は印刷業界が非常に厳しいなか、55社もの印刷産業に関連の企業の皆様に賛同いただいて、盛大な会が開催できることを、全印工連の会長という立場で御礼申し上げます。東印工組でも、PRIMEDEXという展示会を、一昨年まで2年に1度開催していたが、現在は開催していない。東京がこういった会ができないなかで、北海道でこうした会が開けるといことは、大変ありがたいと思う。現在、全印工連の傘下のなかでは、北海道、宮城、大阪、広島、福岡で開催されている。東京としては大変羨ましい限りである。今年の執行部はやる気は十分ある。9月に北海道で全国大会を開催させていただく。既に500人以上の参加者登録が済んでいる。盛大に開催される予定である。中身も充実して開催するので、こちらも興味を持って見ていただければと思う。今年我々執行部は若返り、やる気があるという話をしたが、特にこれからの情報発信においては全印工連としてはできる限りのことをやって

いきたい。組合員だけでなく関連業の皆様にもアンテナを張っていただき全印工連5,700社がどういう方向に向かっていくかしっかり見ていただきたいと思います。特に来年9月東京で行われる全印工連フォーラムでは一昨年出した産業成長戦略提言の第2弾を発表する予定である。すでに委員会は活動をはじめている。いずれにしても厳しい状況である。胆管がんなどいろいろな逆風があるが、執行部一同全身全霊で全印工連の皆様へ情報発信をしていきたいと思うので理解をいただければと思う」と述べた。

つづいて、来賓の田中利穂北海道経済産業局地域経済部長、檜山明男北海道経済部産業振興局技術支

援担当課長、松川泰昭札幌市経済局産業振興部ものづくり産業課長、島村博之全日本印刷工業組合連合会会長、岡部康彦実行委員会会長、板倉清実行委員長（北海道印刷工業組合副理事長）によりテープカットが行われ開幕した。

同展において「第5回メディア・ユニバーサルデザインコンペ入選作品展」、「第53回全国カタログ・ポスター展入選作品展」、「2012第63回全国カレンダー展入選作品展」が同時開催された。

さらに、30日と31日には、「望まれる印刷・関連企業になるため【第6弾】」をテーマに4つの公式セミナーが開催され盛況であった。

## 第18回北海道青年印刷人フォーラム 開催される

9月1日にアクセスサッポロにおいて、第18回北海道青年印刷人フォーラムを開催しました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。全国青年印刷人協議会（以下、全青協）では今期のテーマをブランディングとし、自社のミッション・ビジョン・バリューを考えブランド価値の構築に取り組んでまいります。

全青協議長の滝澤光正氏よりこれまでの全青協の活動内容の報告や何故ブランディングなのか、成熟した印刷産業が今後どのように市場での存在価値を示していくのかをお話いただきました。

次に、ソーゴー印刷株式会社 代表取締役 高原 淳氏に「ブランディング実践事例」を講演いただきました。高原社長はマインドがフォトグラファーであること、二代目社長を2回経験し現在に至るまでの活動や、現在行っている朝礼の様子など、動画を交えながらお話いただきました。CSやESが当たり前のレベルになり、エンゲージメントを高めることが今後は必要だともお話しいただき、情報一極集中時代が終わり、北海道文化が開花するチャンスとの言葉で締めいただきました。

次に、全青協副議長 安平健一氏によるブランディングセミナーが行われた。今までとこれからの社会環境の変化、価値観の変化を念頭にブランドの構築、ア



プローチ方法がテキストを用いて発表されました。

最後に全青協副議長 伊藤壽彦氏をファシリテーターにワークショップを行いました。自社の経営理念や考え方、自社の将来像をワークシート上に記入し、自社のブランドを考えました。

各社が今一度自社を見つめなおし、地域社会や顧客からなぜ選ばれているのか、自社の得意分野は何か、どの分野で貢献できるかなど各社のアイデンティティーを研ぎ澄ませ、自社のブランドを掲げていくことが重要になってくるはずで

（青年部事業委員長 大和繁樹 記）

# 2012北海道情報・印刷産業展 公式セミナー開催される

## 望まれる印刷・関連企業になるため〔第6弾〕

2012北海道・情報印刷産業展公式セミナーが、会期中の8月30日と31日にアクセスサッポロのレセプションホールで開催され、4つのセミナー全てが多数の受講者で盛会裡に開催された。

セミナー第1講は、8月30日午後1時からキャノンマーケティングジャパン(株)コマーシャルプリント拡大プロジェクトチーフの曾我部秀樹氏を講師に迎え、「クライアントに喜んで頂く印刷ビジネスとは～お客様にどう価値を提供するのか～」をテーマに開催された。

曾我部講師は、クライアントのマーケティング活動は活発化し、印刷事業は情報加工サービス業へ変革を果たす時代に入ったので、お客様のビジネスを如何に支援するかが重要とし、印刷会社がどのようなステップで変革するかを説明した。

セミナー第2講は、8月30日午後3時から富士フィルムビジネスサプライ(株)の提供により富士ゼロックス(株)PS営業本部営業推進室部長の飯塚彰一氏を講師に迎え、「顧客価値創造型営業セミナー」をテーマに開催された。

飯塚講師は、印刷会社のお客様、お客様のお客様、お客様の競合相手を見て、その相関を調べ、その相関を仮説として、営業が一人ではなく、チームで考えていく営業手法について説明した。

セミナー第3講は、8月31日午後1時からリコージャパン(株)の提供によりbrain design代表の佐々木雅志氏を講師に迎え、「デジタル印刷の活用で生き残る戦略を考える～『解』はお客様にある～『お客様との距

離』を縮めれば、PODビジネスの利益は見えてくる」をテーマに開催された。

佐々木講師は、印刷物の価格競争が進み、少ロット印刷では内製化・異業種参入という新たな競合が生まれ、いままでの成功パターンを見直す必要があるとし、お客様は目的を達成するために印刷物を発注するという原点に立ち返り、価値を提供するためにデジタルとオフセット印刷の融合を図り業績を伸ばしている実例を紹介し、今すぐ着手すべきこと、中長期的に取り組みことなどを説明した。

セミナー第4講は、8月31日午後3時からコニカミノルタビジネスソリューションズ(株)マーケティング本部PPG事業推進センター課長の杉山晴美氏を講師に迎え、「デジタル印刷を活用していかに印刷受注につなげるか!～デジタル印刷機とオフセット印刷の両輪が受注確保のkey Point～」をテーマに開催された。

杉山講師は、デジタル印刷機を設備しただけでは仕事は来ないし、従来のオフセット印刷と比較しても手間がかかる割りに単価が安い。単品で考えるとそうなるが、デジタル印刷機を上手く使うことによって既存のオフセット印刷の受注を守り、新規開拓のきっかけになるとし、実例を基に説明した。

# 第6回メディア・ユニバーサルデザイン コンペティション作品募集

全日本印刷工業組合連合会では、「第6回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」を開催する。

全日本印刷工業組合連合会では、各産業界および個々の企業が、社会的責任を果たすためのコンプライアンス活動を行う重要性が求められている現状を踏まえ、全ての人に優しく、より多くの人々が快適に利用できることを目的としたユニバーサルデザインの考え方に準じた「メディア・ユニバーサルデザイン (MUD)

活動」に、2007年度から取り組んでいる。

この取り組みをより強固なものにするために、一般社会に対してはMUD活動の意義と必要性を広くアピールし、印刷業界においても印刷技術の向上を目指すことを目的として、「メディア・ユニバーサルデザインコンペティション」を開催している。

主 催	全日本印刷工業組合連合会		
後 援	経済産業省、国際ユニヴァーサルデザイン協議会、読売新聞東京本社、朝日新聞社、日本経済新聞社、日本印刷産業連合会、日本プロモーション・マーケティング協会、日本グラフィックデザイナー協会、日本パッケージデザイン協会、日本図書設計家協会、メディア・ユニバーサル・デザイン協会、カラーユニバーサルデザイン機構		
応 募 期 間	2012年9月3日(月)～11月30日(金)		
応 募 作 品 (例)	カレンダー・マップ・パンフレット・サイン・パッケージ・チラシ・ポスター・ラベル・ゲーム(UNO・トランプ等)など		
応 募 資 格	一般の部：プロ・アマを問わず、どなたでも応募可能 学生の部：大学・短期大学・専門学校・高等学校に在学している学生・生徒		
応募対象作品	2011年7月以降に制作されたもの		
応 募 方 法	作品1点とデータ1点(CD-Rにai/eps/jpeg/pdf形式でアウトライン化して保存したもの)を出品申込書とともに送付する。		
出 品 料	応募作品1点につき、一般3,000円 学生は無料		
授 与 賞	《一般の部》		
	経済産業大臣賞	表彰状・賞金	200,000円
	優 秀 賞	表彰状・賞金	50,000円
	佳 作	表彰状・賞金	10,000円
	《学生の部》		
	経済産業大臣賞	表彰状・図書カード	30,000円分
	優 秀 賞	表彰状・図書カード	10,000円分
	佳 作	表彰状・図書カード	3,000円分

## 北海道印刷工業組合 メールマガジン 配信登録受付中

メールマガジンの配信希望は、北海道印刷工業組合のHPから申込受付を行っています。

[URL]  
<http://www.print.or.jp>



---

審査日 2012年12月18日(火)

---

審査結果発表 2012年12月25日(火) 入選者にのみ入選通知書を送付

---

審査基準 a. メディア・ユニバーサルの観点から、見やすさにおいて優れているもの。  
b. 斬新な発想とアイデアにより、独自の新規性や工夫・技法が考慮されているもの。  
c. 色彩構成だけでなく企画・デザイン・素材などの組み合わせにより、メディア・ユニバーサルの配慮がなされているもの。  
d. それぞれのメディア(部門)において、実用的かつ機能的なもの。

---

審査委員 伊藤 啓 (東京大学分子細胞生物学研究所高次構造研究分野准教授)  
吉田 晴子 (国際ユニバーサルデザイン協議会理事)  
武者 廣平 (NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構理事長)  
土生 英彦 (色覚問題研究グループばすてる事務局長)  
高橋 正実 (MASAMI DESING)  
橋田 規子 (芝浦工業大学デザイン工学部デザイン工学科教授)  
日原 左知夫 (創造意匠)  
伊藤 道裕 (NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会理事長)  
橋本 博 (NPO法人メディア・ユニバーサル・デザイン協会事務局長)  
森永 伸博 (全日本印刷工業組合連合会MUD事業推進室委員長)

---

表彰式 2013年2月上旬、会場は未定

---

注意事項 (1)応募作品の意匠権、特許権、実用新案権、商標権、著作権などの知的財産権は応募者が自ら適切な権利処理を行う。  
(2)入選作品は展示・公開され、また応募作品はその他の印刷媒体に掲載されることがある。  
(3)応募作品およびデータは返却しない。  
(4)作品サイズによっては、作品の保管場所や審査会場・展示会場の都合により、実物による出品の受付ができない場合がある。

---

応募・問合せ 全日本印刷工業組合連合会  
〒104-0041 東京都中央区新富1-16-8 日本印刷会館4階  
電話03-3552-4571 FAX03-3552-7727

---

お詫び

本紙第675号(平成24年8月号)に暑中見舞名刺広告の掲載をいただきましたが、23頁の中西印刷株式会社様の広告で「今年で99年を迎えます」と記載しましたが「今年で100年を迎えます」の誤りでした。深くお詫び申し上げます。